

S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》
平成 23年 8月
(第31 ~34週)発行年月日: 平成23年(2011年)9月14日
発 行: 滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

1) 全数報告の感染症(一類~五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一~四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。
 このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一~四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 23年		平成 22年 [†]		感染症 類型	疾 病 名	平成 23年		平成 22年 [†]			
		1~7月		8月				1~7月		8月			
		滋賀県	全 国	滋賀県	全 国			滋賀県	全 国	滋賀県	全 国		
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ベスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	急性灰白脳炎	0	1	0	0	0	2						
	結核	185	16,909	19	2,637	251	26,704						
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0						
二類	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0						
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0						
三類	コレラ	0	3	0	3	0	10						
	細菌性赤痢	2	112	0	38	2	235						
	腸管出血性大腸菌感染症	36	1,798	20	856	66	4,131						
	腸チフス	0	13	0	1	0	32						
	パラチフス	0	16	0	1	1	21						
四類	E型肝炎	0	37	0	4	0	66						
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0						
	A型肝炎	0	138	0	5	3	346						
	エキノコックス症	0	11	0	1	0	17						
	黄熱	0	0	0	0	0	0						
	オウム病	0	10	0	1	1	11						
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0						
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	1					
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0					
	Q熱	0	0	0	0	0	0	2					
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0					
	コクシジョイディス症	0	2	0	0	0	1						
	サル痘	0	0	0	0	0	0						
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0						
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0						
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0						
五類	炭疽	0	0	0	0	0	0						
	チクングニア熱 ^(*)	0	5	0	0	-	-						
	つぶつ虫病	0	157	0	5	2	406						
	デング熱	1	50	0	9	2	245						
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0						
	動物の 感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類		0		70		0		1			
	細菌性赤痢のサル	9		14		0		1		0			
	エキノコックス症の犬	0		0		0		0		1			

(*): 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。-: 未集計

*1 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数)

滋賀県における全数報告感染症の概要
(8月)

<結核> 19名

性別: 男性 17名、女性 2名
 類型: 患者 18名
 無症状病原体保有者 1名
 病型: 肺結核 13名
 その他の結核 5名
 無症状病原体保有者 1名

<腸管出血性大腸菌感染症>

性別: 男性 10名、女性 10名
 類型: 患者 14名
 無症状病原体保有者 6名
 年齢: 0~9歳 5名、10~19歳 5名
 20~29歳 3名、30~39歳 1名
 40~49歳 2名、50~59歳 1名
 60~69歳 2名、70歳~ 1名

血清型・毒素型:

O157・VT1&VT2 13名
 O157・VT1 1名、O157・VT2 2名
 O145・VT1 1名、O26・VT1 2名
 O不明・VT2 1名

<レジオネラ症> 男性 58歳、59歳

推定感染経路は水系感染で、推定感染地域は日本国内です。

<梅毒> 男性 41歳

推定感染経路は同性間性的接触で、推定感染地域は日本国内です。また、病型は早期顕症梅毒です。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一ヵ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したもので(患者報告数／定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。

また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

8月の概要

<インフルエンザ>

第31～34週(8/1～8/28)の定点当たり患者数は、先月よりさらに減少し0～0.02で推移し、大津市保健所管内からの報告のみでした。

<小児科定点疾患>

今月増加した疾患はRSウイルス感染症および百日咳で、他の疾患ではすべて減少していました。特に、咽頭結膜熱(プール熱)、手足口病およびヘルパンギーナで大幅に減少していました(各疾患の週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

RSウイルス感染症——例年同時期の発生状況と比較すると、定点当たり患者数はやや多くなり、全国とほぼ同様の傾向を示していました。また、年齢群別の発生状況では、大部分は0～1歳からの報告です。

滋賀県におけるRSウイルス感染症の年次別発生状況は、下記グラフのとおりです。

百日咳———大津市および東近江保健所管内からの報告が多く、年齢群別発生状況では、0～1歳、2歳および10～14歳から報告されていました。

手足口病———第26週(6/27～7/3)に県内全域に警報が発令されて以降、第31～40週(8/1～8/28)も警報の発令は継続していました。

ヘルパンギーナ———第28週(7/11～7/18)に県内全域に警報が発令されましたが、第34週(8/22～8/28)に解除されました。

<眼科定点疾患><基幹定点疾患>

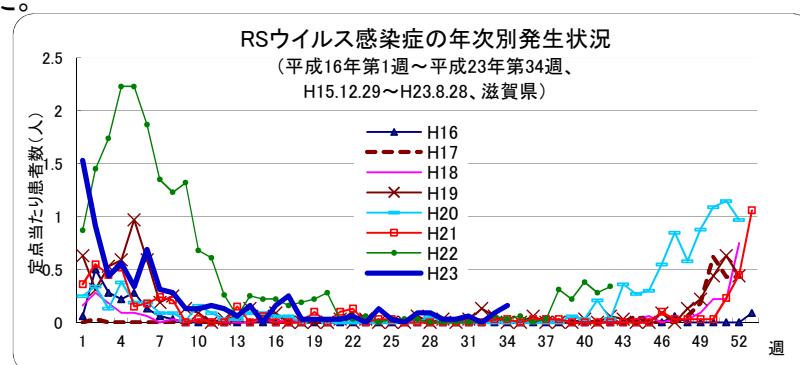
眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より減少しているものの、先月と同様、彦根保健所管内からの報告が多くなっていました。急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。

基幹定点疾患では、細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎は先月より減少し、今月の報告はありませんでした。マイコプラズマ肺炎は先月よりさらに減少し、大津市保健所管内からの報告のみでした。また、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<疑似症定点からの報告>

報告はありませんでした。

RSウイルス感染症の年次別発生状況



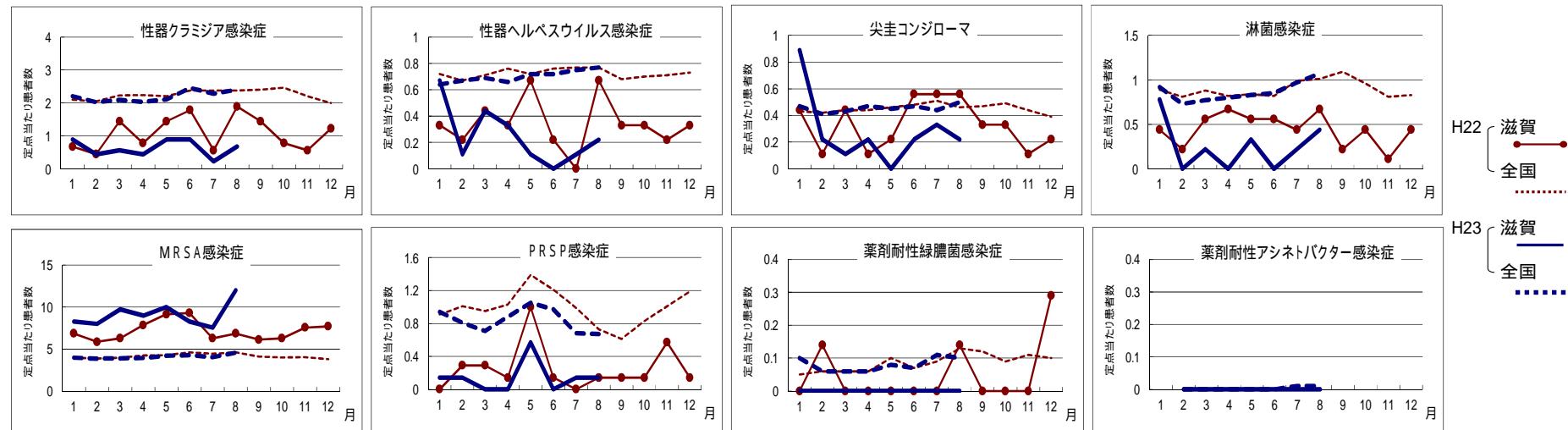
<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レソ菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

3)性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成23年8月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	報告数	8	4	5	4	8	8	2	6					45
	定点当たり患者数	0.89	0.44	0.56	0.44	0.89	0.89	0.22	0.67					5.00
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	1	4	3	1	0	1	2					18
	定点当たり患者数	0.67	0.11	0.44	0.33	0.11	0	0.11	0.22					1.99
尖圭コンジローマ	報告数	8	2	1	2	0	2	3	2					20
	定点当たり患者数	0.89	0.22	0.11	0.22	0	0.22	0.33	0.22					2.21
淋菌感染症	報告数	7	0	2	0	3	0	2	4					18
	定点当たり患者数	0.78	0	0.22	0	0.33	0	0.22	0.44					1.99
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	58	56	68	63	70	58	53	84					510
	定点当たり患者数	8.29	8.00	9.71	9.00	10.00	8.29	7.57	12.00					72.86
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	1	0	0	4	0	1	1					8
	定点当たり患者数	0.14	0.14	0	0	0.57	0	0.14	0.14					1.13
薬剤耐性 綠膿菌感染症	報告数	0	0	0	0	0	0	0	0					0
	定点当たり患者数	0	0	0	0	0	0	0	0					0
薬剤耐性 アシнетバクター感染症 ^(*)	報告数	-	0	0	0	0	0	0	0					0
	定点当たり患者数	-	0	0	0	0	0	0	0					0

* : 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。 - は未集計。

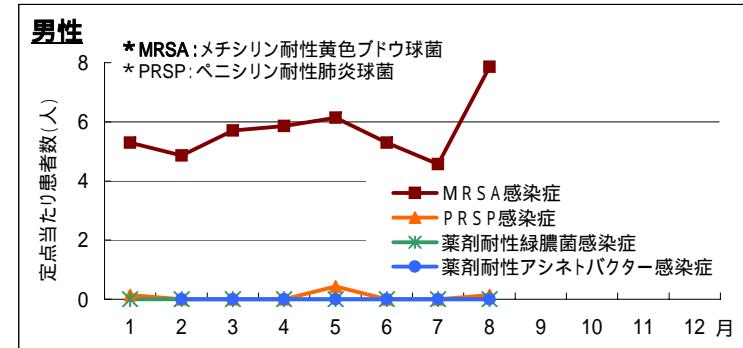
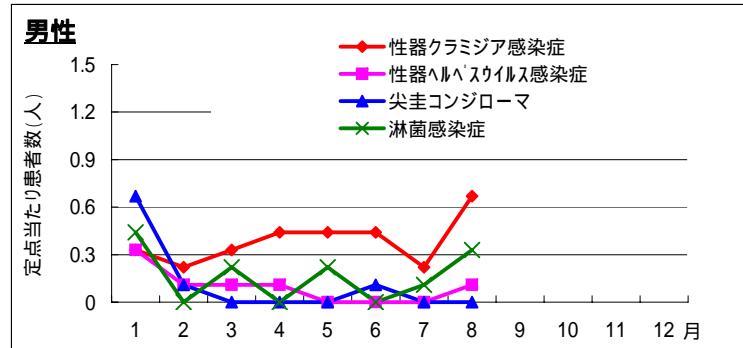


滋賀県における発生状況を先月と比較すると、増加した疾患は性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、淋菌感染症およびMRSA感染症で、減少した疾患は尖圭コンジローマです。また、PRSP感染症は横ばいで、薬剤耐性緑膿菌感染症および薬剤耐性アシネットバクター感染症は報告されていません。

MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

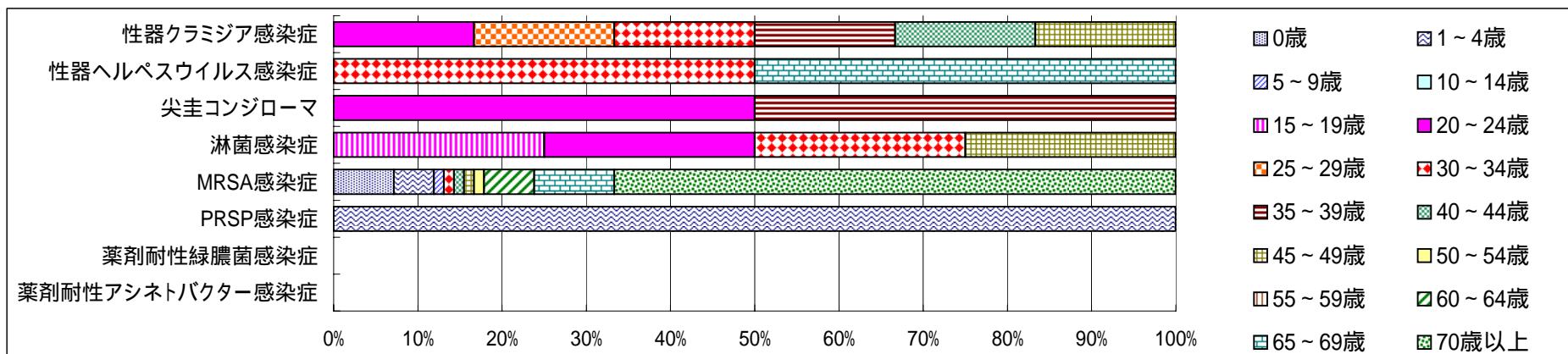
性感染症定点における疾患別発生状況 (H23.8)



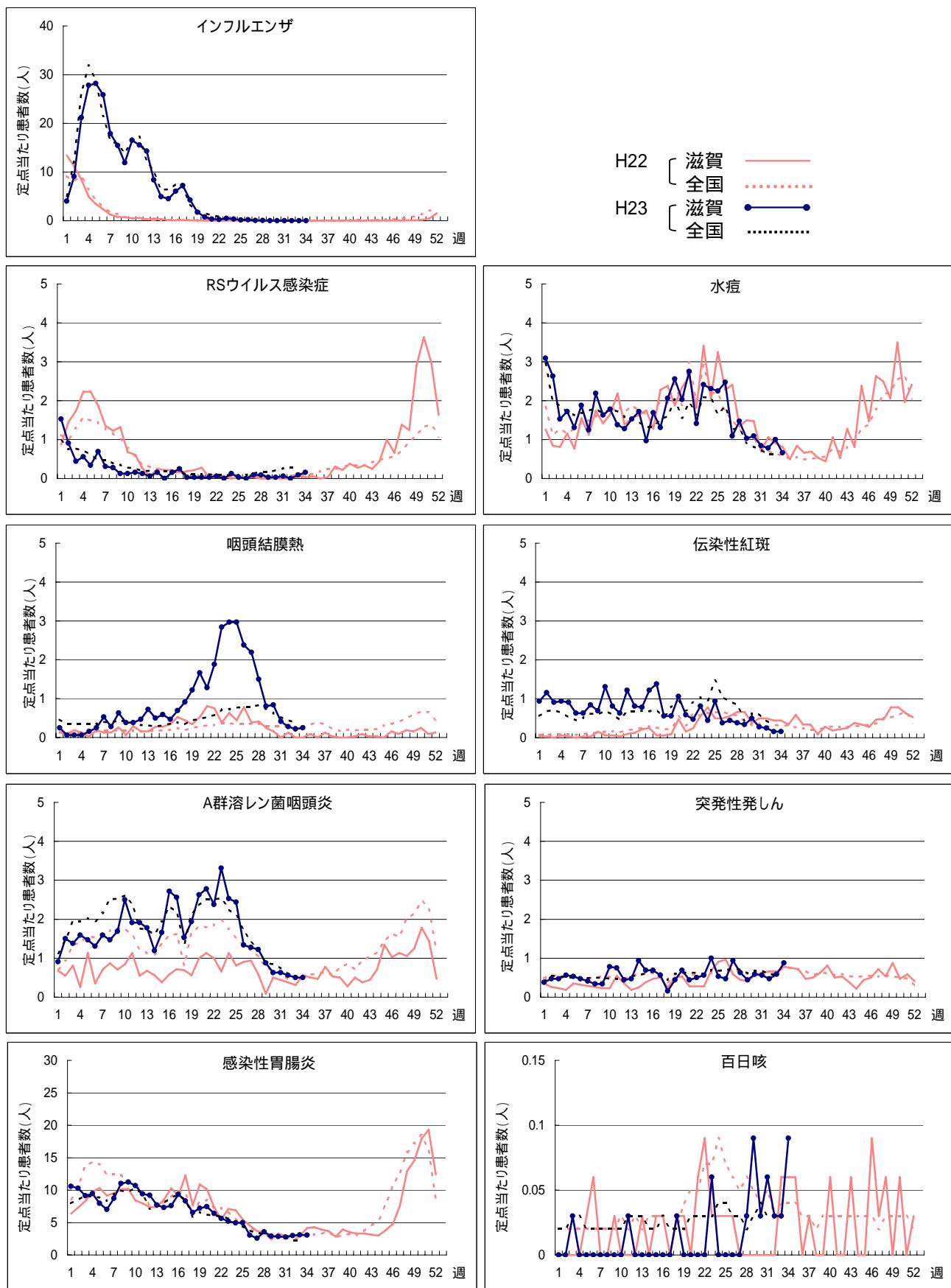
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。男性では、特に性器クラミジア感染症およびMRSA感染症で大幅に増加し、女性ではMRSA感染症で増加していました。他の疾患では先月とほぼ横ばいでした。

また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。性器クラミジア感染症では20～49歳からの報告で、すべて男性でした。また、淋菌感染症では、15～19歳からの報告がありました。

疾患別・年齢別発生状況(H23.8)

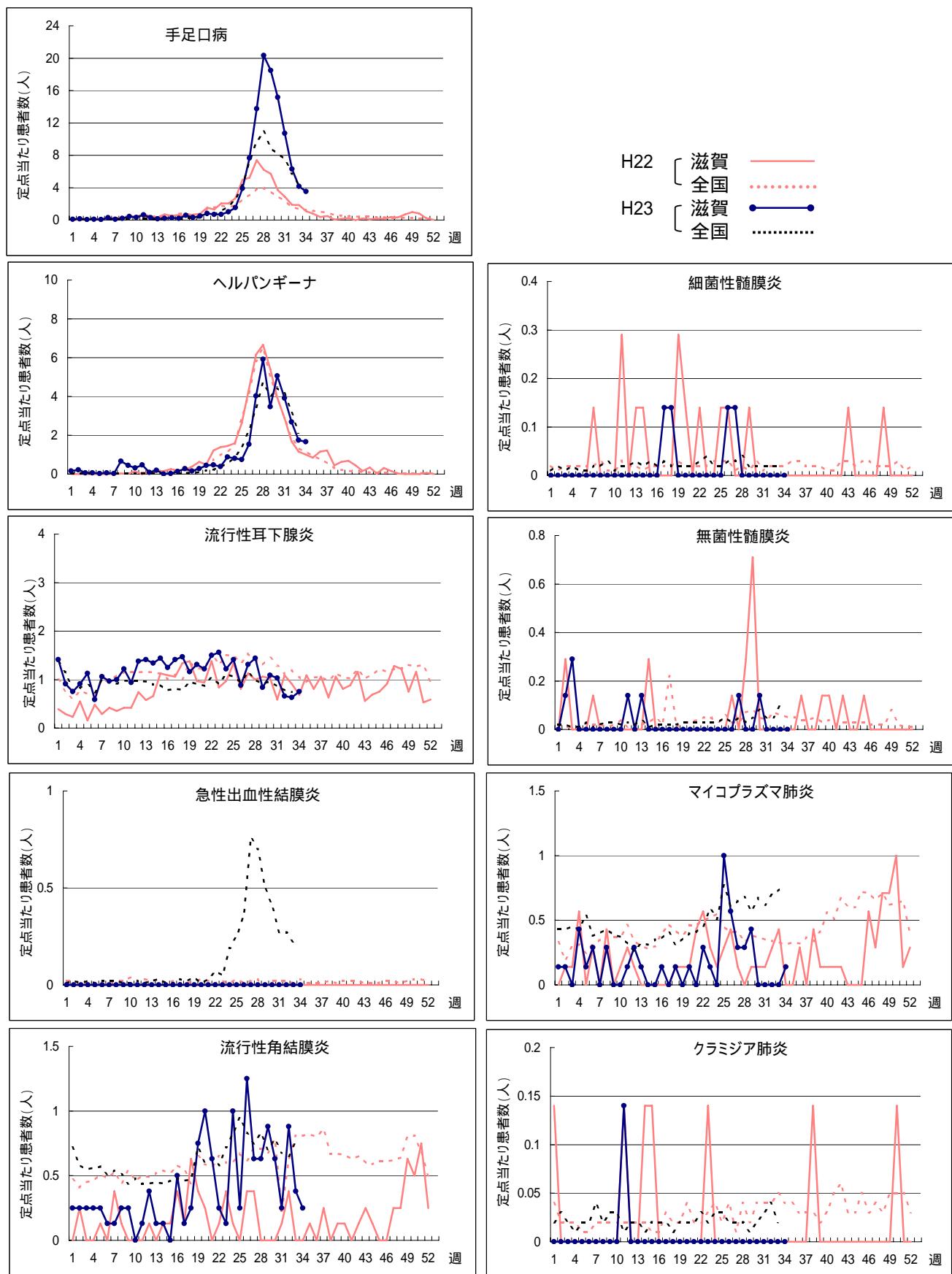


疾病別定点当たり患者数(平成23年第1～34週、H23.1.3～H23.8.28)



戻る

疾病別定点当たり患者数(平成23年第1～34週、H23.1.3～H23.8.28)



戻る